

絶滅危惧種の選定

対象種を選定するにあたっては、環境省のレッドリスト（2007, 2012）および本県のレッドデータブック（1997）において選定されている種、県の特定動植物分布調査により選定調査された種、その他必要と思われた種について評価検討を行い、選定した。なお、ここで対象とする「種」は、原則として種または亜種とし、変種、品種、交雑種および外来種は対象外とした。

カテゴリーの定義

カテゴリーの定義については前回と同様、国レベルと同じカテゴリーを用いた。ただし、カテゴリーの区分にあたっては、国のような定量的データを用いるには十分なデータがなく、県内の実情について、各委員の経験や知見に基づき、判断した。

茨城県レッドリスト（植物編）のカテゴリー定義およびその基本概念

絶滅	本県ではすでに絶滅したと考えられる種。 (栽培下でのみ生育している野生絶滅を含む。)
絶滅危惧Ⅰ類	絶滅の危機に瀕している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。
絶滅危惧ⅠA類	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。
絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧ⅠA類程ではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。
絶滅危惧Ⅱ類	絶滅の危険が増大している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧ⅠB類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。
準絶滅危惧	存続基盤が脆弱な種。現時点での絶滅危険度は小さいが、生育条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。
情報不足	評価するだけの情報が不足している種。
①注目種	最近県内での生育が確認された種であるが、県内の分布域がまだ十分に調査されていない種。
②現状不明種	最近の情報がなく、生育状態が不明の種。

選定理由一覧

No.	理由略記	選 定 理 由
1	森林の伐採	森林の伐採や道路(林道含む)の開発, 改修, 拡幅などにより, 生育適地が減少している。
2	遷移の進行	土地の管理放棄により遷移が進み, 生育適地が減少している。
3	生育地点が少ない	生育地点が極めて少なく, 容易に絶滅する危険性がある。
4	湿地の開発	湿地の埋立や開発に伴う乾燥化などにより, 生育適地が減少している。
5	草地の開発	草地の開発により, 生育適地が減少している。
6	河川の改修	河川改修や河川敷堤防の開発により, 生育適地が減少している。
7	個体数が少ない	個体数が極めて少なく, 容易に絶滅する危険性がある。
8	園芸採取	園芸用に人気が高く, 山野草栽培者などによる採取により, 個体数が減少している。
9	湖岸の埋立	湖岸の埋立などの開発により, 生育適地が減少している。
10	海岸の開発	海岸の砂防工事などの開発により, 生育適地が減少している。
11	溜池の埋立	溜池の埋立や護岸の改変などにより, 生育適地が減少している。
12	水質の汚濁	水質の変化, 汚濁による生育環境が悪化により, 個体数が減少している。
13	農地の改修	農地の改修に伴う環境変化により, 個体数が減少している。
14	農薬の使用	農薬の使用による生育環境の悪化により, 個体数が減少している。
15	外来種との競合	外来種と生育地が競合することにより, 個体数が減少している。
16	登山者による踏みつけ	登山者や野外活動による踏みつけにより, 個体数が減少している。

前回のレッドデータブック（1997）との比較

今回は、前回は大きく上回る 576 種が絶滅のおそれがあるとされた。また前回から 24 種がレッドリストから削除された。これは県内各地での開発が進んだこと、および前回のレッドリストが公開されて、それをもとに、さらに調査が進んだことにより、生育状況や分布域が明らかになってきたことなどによるものと思われる。さらに 94 種を情報不足として指摘し、今後の調査課題とした。

表－5 前回（1997）との比較表

		1997 該当種（391 種）					
2012 該当種 (576 種)	カテゴリー	絶滅種	絶滅危惧種	危急種	希少種	追加種	総計
	絶滅	15	7	1	2	6	31
	絶滅危惧ⅠA類	2	38	22	7	11	80
	絶滅危惧ⅠB類		22	56	24	52	154
	絶滅危惧Ⅱ類	1	8	37	44	78	168
	準絶滅危惧		1	15	37	90	143
	総計	18	76	131	114	237	576
	情報不足①注目種				1	28	29
	情報不足②現状不明種	3	9	11	4	38	65
	茨城レッドリスト1997 からの削除種	2	3	10	9		24

1997年レッドリストから削除された種

多くの生育地が確認された種

ミズワラビ（希少種）、キヨスミヒメワラビ（希少種）、ヒメスミレ（危急種）、カクレミノ（危急種）、イヌシヨウマ（希少種）、センダイトウヒレン（希少種）、ササクサ（希少種）、コ克蘭（危急種）

外来種とされた種

クソニンジン（希少種）、キンガヤツリ（絶滅危惧種）

生育地が県外（福島県）とされた種

ハリモミ（危急種）

同定の変更があった種

サカネラン（希少種）→タンザワサカネラン
ムサシタイゲキ（絶滅種）センダイタイゲキと区別しない
ウスイロスゲ（危急種）別種と同定
オニガヤツリ（危急種）別種と同定

対象外とされた種

交雑種

ヤマドリトラノオ（危急種）、フジオシダ（希少種）、ヤミゾスミレ（危急種）、ササエビモ（危急種）、イサリモ（絶滅危惧種）、サンネンモ（希少種）

品種

マルバイノコズチ（絶滅種）、ケナシベニバナヤマシャクヤク（絶滅危惧種）、ケヤマシャクヤク（危急種）